

特集 強迫スペクトラム障害の可能性と治療——DSM-5の動向と薬物療法を中心に——

強迫スペクトラム障害の可能性と治療
——DSM-5の動向と薬物療法を中心に——

松永 寿人

強迫性障害 (Obsessive-Compulsive Disorder ; OCD) は、DSM-III以降、不安障害の一種に位置付けられている。実際他の不安障害とは、病的不安に加え、不合理性に関する洞察、回避などによる機能的問題といった臨床特徴、選択的セロトニン再取り込み阻害薬や認知行動療法の有効性も共通している。しかし OCD 患者の中には、不安、あるいは洞察に乏しい場合も認められ、さらに成因や脳機能的、神経化学的知見など、生物学的背景における他の不安障害との相違が多角的に検証されており、DSM-5の改訂では、OCDと他の不安障害との境界をより明瞭にすることが議論されている。これに関連して、OCDに類似した臨床症状を呈し、comorbidity、家族性、神経免疫といった病因、神経生物学的背景、例えば脳形態学的、脳機能的異常などについて、特異的共通性が推定される障害群、すなわち強迫スペクトラム障害 (Obsessive-Compulsive Spectrum Disorder ; OCS) が注目されている。OCSは、「とらわれ」や「反復的・儀式的行為」などの症候学的特徴に加え、前頭葉機能異常といった病態、あるいは成因仮説と、臨床的諸現象との整合性を目指しており、各障害間の関連性や連続性を想定した概念である。従来の研究でも、家族性要因や線条体を中心とした脳機能、セロトニン、ドパミン系など神経化学システムに関し、OCS間に

共通ないし類似性が報告されている。

現在 DSM-5 の改訂に向け、OCS の構成や位置付けが、各候補障害の検証やワーキング・グループ間の折衝を経ながら進められている。2010年2月に公開された草稿には、OCS は他の不安障害と同一カテゴリーをなす可能性が示された。その内容は、OCD、身体醜形障害、抜毛癖 (hair-pulling disorder)、チック障害、トゥレット症候群に常同運動障害が加えられ、さらには hoarding disorder, olfactory reference syndrome, skin picking disorder などが新たに提案されている。一方、当初の OCS 候補障害の中で、摂食障害は現行のカテゴリー内に留まり、心気症は、身体化障害や疼痛性障害などと、身体症状、あるいは身体感覚に関する誤った認知を共有する点から、complex somatic symptom disorder に統合され、身体表現性障害カテゴリーに留まることが有力である。また病的賭博については、物質使用障害に嗜癖性行動障害を加えた substance use and addictive disorders カテゴリーに移動されることが有力である。

これらの方針に至った経緯は明らかではないが、元来 OCS は、連続的スペクトラムを想定した疾患群であり、そのカテゴリー化や境界設定は、本質的には馴染まない。特にその横断的特性を考えれば、従来からの精神障害分類体系全体にお

第107回日本精神神経学会学術総会=会期：2011年10月26~27日、会場：ホテルグランパシフィック LE DAIBA、ホテル日航東京

総会基本テーマ：山の向こうに山有り、山また山 精神科における一層の専門性の追求

シンポジウム 強迫スペクトラム障害の可能性と治療——DSM-5の動向と薬物療法を中心に—— 座長：松永 寿人 (兵庫医科大学精神科神経科)、岡田 俊 (名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科) コーディネーター：松永 寿人

るバランスや、整合性にも様々な配慮を要したであろう。これらの難関を乗り越えてでも、OCS Dを新設させる、あるいはその障害を従来のカテゴリーから OCS Dに移行するには、相当の根拠や妥当性、あるいは治療法の選択基準となりうるような明確な臨床的有用性が必要である。しかし多くでは、これを支持するエビデンスが量的にも質的にも十分とはいえず、この点が現在までの OCS Dを巡るプロセスに、最も強く影響したことは間違いない。

草稿における OCS Dは、OCDや身体醜形障害、hoarding disorder など、症状の背景に認知的プロセスの関与が明らかな一群 (cognitive OCS D) と、トゥレット症候群や常同運動障害、抜毛癖といった認知的要素に乏しい、またはそれを欠いた繰り返し行為を特徴とする運動性の一

(motoric OCS D) に大別され、スペクトラムというには、類型的、あるいは非連続的イメージが拭えない。特に motoric OCS Dに関して、不安障害と同一カテゴリーに分類することを疑問視する意見も少なくない。現ワーキング・グループには、cognitive OCS Dのみを残し、不安障害全体との関連性や整合性を優先させようという意向もあるようである。実際、最近公開された草稿では、neurodevelopmental disorders という新たなカテゴリーが新設され、チックや常同運動障害などがそこに移行し、OCS Dは obsessive compulsive and related disorders として、不安障害から分離される案が示されている。この辺りは、field trial などを経て最終型を目指すこととなるが、先行きは今なお不透明な状況である。